

萩之本遺跡

現地説明会資料



2008. 2. 16

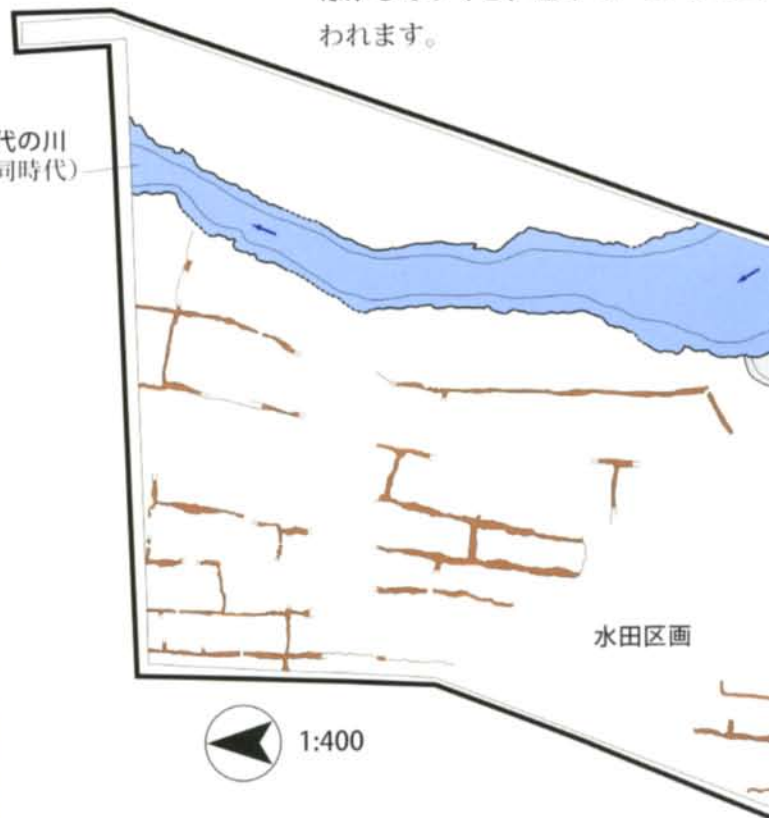
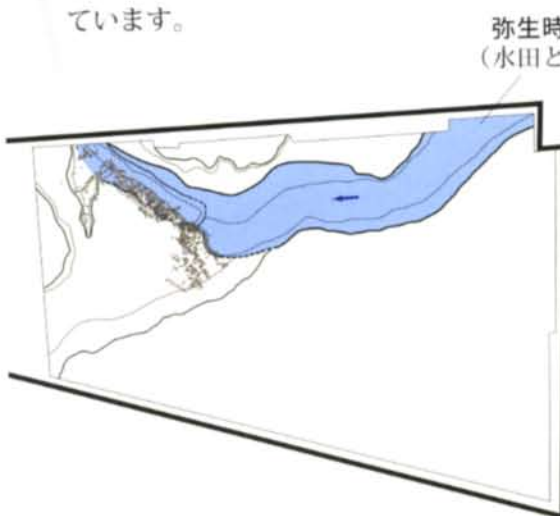
奈良県立橿原考古学研究所



▲
矢板と長い木杭を打ち込んで灌漑施設をつくっているようです。この部分は一段深く掘りくぼめてあって、水田に引く水をためる目的があったようです。この写真の右側では、水田へ水をとる「取水口」が設けられていることもわかっています。



▲
弥生時代の水田は、黄色みを帯びた色の砂に覆われていました。砂を丁寧にはがしてゆくと、畦畔（アゼ）があらわれます。

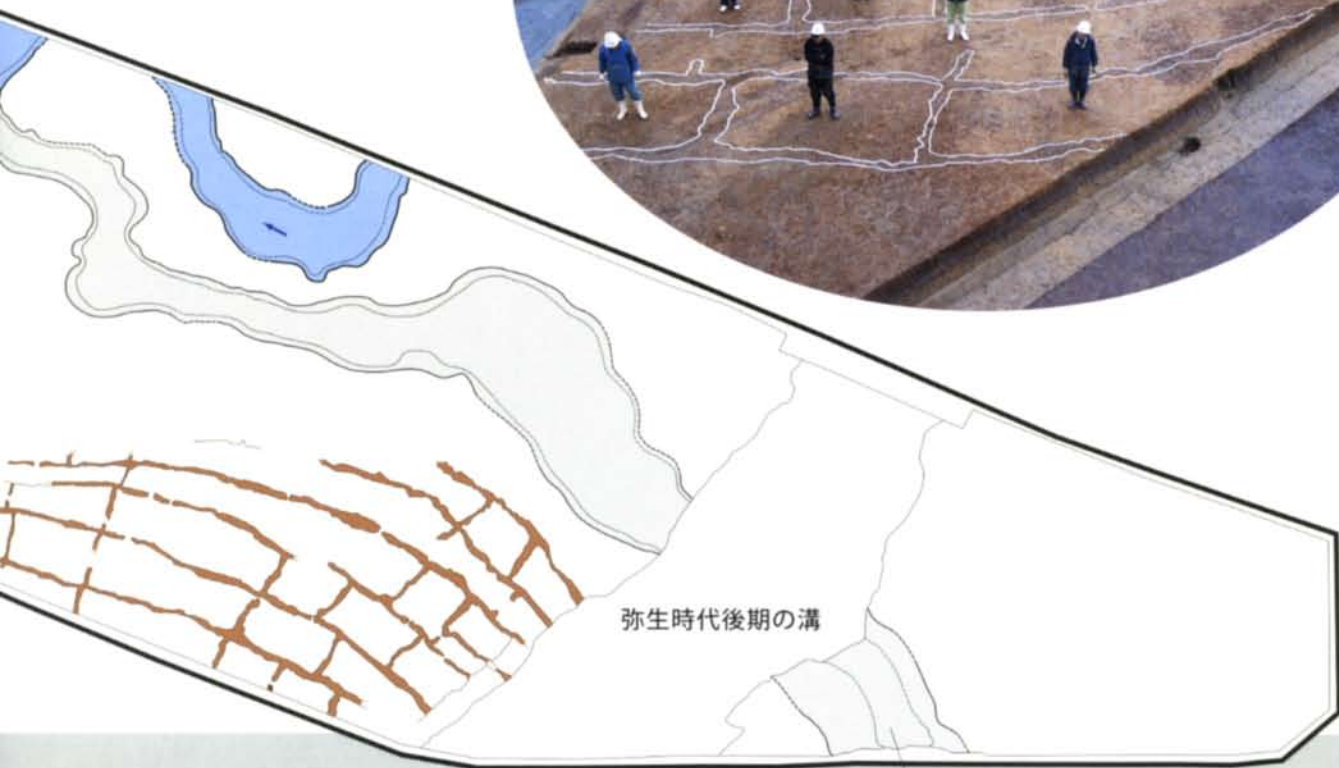


萩之本遺跡と周辺の主要な弥生時代の遺跡の位置
1/60,000 (国土地理院発行 1/50,000 地形図「吉野山」を縮小)



畦畔にはところどころ切れ目があります。田から田へ水を流してゆきとどかせる、「水口」と考えられます。

ひとつひとつの水田区画は、2.5 × 4 m くらいの長方形が多く、面積は 10 m²ほどしかありません。



弥生時代後期の溝

縄文時代の川

(弥生時代には窪みとしてのこっている)

【はじめに】

橿原市川西町萩之本地区の東側にある萩之本遺跡^{はぎのもとのせいせき}の発掘調査で、弥生時代の水田遺構とそれに関連する灌漑施設^{かんがいしせつ}などがみつけられました。確認できた水田は、弥生時代に営まれていたことがわかりました。奈良県で初期の水田が広範囲で見つかったのは、今回が初めてです。

【水田遺構と灌漑施設】

このあたりは、縄文時代の終わりごろ、南から北へと川が流れていました。山に近い低地であるため、川が栄養分を多く含む山の土を削って運んできます。そのため、この場所は土地の肥えた状態となります。盛んに流れていた川は徐々に埋まっていき、その過程で川の西側に高まりをつくっていきます。

この土地は、水が豊富であるという条件も重なり、弥生時代に水田の経営が始められます。水田の耕土にあたる土には、弥生時代前期の遺物が含まれているので、そのころにつくられた水田の可能性があります。水田は川の西側につくられています。北側では方向を変えていることがわかります。これは、川の西側にある高まりを避けて水田がつくられていることを示しています。

水田は、幅 30～40 cm、高さ数cm^{おぜ}の畦で区切られます。水田の形は大半が長方形で、その面積は 10 m²ほどの小区画となります。これは、水田を細かく分けて平坦面をつくりやすくするための工夫だと考えられます。畦には、ところどころに水口^{みなぐち}と呼ばれる切れ目があり、ここからとなりの水田へと順々に水をまわし、水をためていったようです。

水田の耕土には、砂が帯状に何層か観察できます。このことから、水田を営んだ時期には比較的規模の小さい洪水が何度かあったようです。洪水が起こると水田の復旧作業が必要となりますが、その反面、栄養分の多い土が上流側から運ばれ、より土の肥えた水田になっていったものと考えられます。

水田の北側には灌漑施設があります。灌漑施設は、矢板や杭を幾重にも打ち込んでつくられた、手の込んだ

ものです。灌漑施設は水田の下流側で見つかったため、水田との直接的な関係はあきらかではありません。しかし、灌漑施設がつくられている溝から出土した遺物と、水田の耕土から出土した遺物がほぼ同じ時期であることから、水田と同じ時期の施設と考えてよいでしょう。

一定の期間営まれた水田ですが、ある時期に発生した洪水が運んだ砂によって覆われてしまいます。この洪水を機に、この場所で水田を営むことをやめたようです。しかし、水田が砂に覆われたことで、発掘調査という機会をとおして、私たちは当時のままの水田を見ることができるのです。

水田が洪水によって埋まったあと、調査区の南側で弥生時代後期後半に川を利用した溝がつくられます。この溝にも、護岸施設が設けられます。調査区のなかで、この溝と同じ時期の水田は確認できませんでした。このような施設があるということは、周辺にこの時期の水田も存在するのでしょう。

発掘調査で中世も耕地であることが分かっていますが、現代においても周辺では水田が営まれています。今も昔も、人びとは水田から多くの恵みを得ています。

【まとめ】

今回の発掘調査で、どのような土地に水田がつくられ、それにとまってどのような施設がつくられたのかといった情報を知ることができました。弥生時代には水田を営むことが生活の中心だったと考えられます。水田から得た穀物を多く蓄えることによって余剰が発生します。そして、その余剰が階級の差を生みます。水田の経営は、社会的な地位を左右するほどの重要な要素のひとつだったのです。そのような重要な経済基盤である水田を広範囲にわたって確認できたことの意義は大きいといえます。今後、周辺の集落とのかかりなどを考えていく必要があります。

(波多野 篤)

萩之本遺跡

現地説明会資料

2008年2月16日

奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065 奈良県橿原市政傍町1番地 Tel.0744-24-1101

<http://www.kashikoken.jp/>

(ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧いただけます)